

平成 1 8 年度分

文部科学省委託調査事業検討会議メンバー一覧

(2006. 10月現在)

青 野 透	(金沢大学 大学教育開発・支援センター教授)
鹿 野 勝彦	(金沢大学 教務担当理事・副学長)
柴 田 正良	(金沢大学 人間社会環境研究科長)
高 田 重男	(金沢大学 医学系研究科教授)
田 川 久之	(金沢大学 評価室次長)
轟 亮	(金沢大学 文学部助教授)
西 山 宣昭	(金沢大学 大学教育開発・支援センター教授)
○ 早 田 幸政	(金沢大学 大学教育開発・支援センター教授)
堀 井 祐介	(金沢大学 大学教育開発・支援センター助教授)
本 木 章喜	(金沢大学 総務・人事担当理事・副学長 経営協議会委員)
山 崎 光悦	(金沢大学 自然科学研究科教授・学長補佐)
山 本 博	(金沢大学 医学系研究科教授)
渡 辺 達雄	(金沢大学 大学教育開発・支援センター助教授)

※ 以上、学内関係者(五十音順)。○は、事業実施会議体の主査。

荒 川 麻里	(山形県立米沢女子短期大学 英語・英文学科講師)
入 澤 充	(東京女子体育大学 助教授)
工 藤 潤	(大学基準協会 大学評価研究部企画・調査研究系主幹)
清 水 一彦	(筑波大学 人間総合科学研究科教授)
夏 目 達也	(名古屋大学 高等教育研究センター教授)
羽 田 貴史	(広島大学 高等教育研究開発センター教授)
秦 由美子	(大阪大学 大学教育実践センター助教授)
八 尾 坂修	(九州大学 人間環境学研究院教授)

※ 以上、学外関係者(五十音順)。

文部科学省との連絡担当者

金 澤 富 男 (金沢大学 学生部学務課・課長)

文部科学省委託調査事業事務局

越 野 衛 一 (金沢大学 学生部学務課教務第二係長)
 根 来 洋 子 (金沢大学 学生部学務課教務第二係員)
 飴 谷 佐 知 (金沢大学 大学教育開発・支援センター事務補佐員 連絡担当)

文部科学省委託調査事業に関する実施の経緯（平成 18 年度分）

平成 18 年 4/11	文科省委託調査事業第 8 回事務局会議
4/21	文科省委託調査事業アンケートデータ集計等について打ち合わせ (早田教授、堀井助教授、轟助教授、渡辺助教授)
4/25	文科省委託調査事業第 9 回事務局会議
5/9	文科省委託調査事業第 10 回事務局会議
5/22	文科省委託調査事業第 11 回事務局会議
6/13	文科省委託調査事業第 12 回事務局会議
6/27	文科省委託調査事業第 13 回事務局会議
6/27	アンケート調査（大学全体調査）中間集計結果封入及び発送（「大学」全体調査 回答校へ）
7/13	拡大事務局会議（検討会議学内メンバー）
8/8	文科省委託調査事業第 14 回事務局会議
8/22	文科省委託調査事業第 15 回事務局会議
9/5	文科省委託調査事業第 16 回事務局会議
9/7	平成 17 年度調査研究報告書（9/7～9/8）封入及び発送
9/12	文科省委託調査事業第 17 回事務局会議
9/17	海外調査（アメリカ 早田教授、堀井助教授、渡辺助教授 9/17～9/22）
9/20	国内調査（新潟大学 柴田教授、田川評価室次長）
9/25	国内調査（徳島大学 山本教授、渡辺助教授）
9/25	国内調査（横浜市立大学 羽田教授、工藤大学評価研究部主幹）
9/26	文科省委託調査事業第 18 回事務局会議
9/29	国内調査（岩手大学 羽田教授、荒川専任講師）
9/29	国内調査（和洋女子大学 八尾坂教授、渡辺助教授）
10/3	国内調査（高知大学 山崎教授、堀井助教授）
10/5	国内調査（北九州市立大学 青野教授、早田教授）
10/5	国内調査（千葉大学 高田教授、西山教授）
10/6	国内調査（大阪医科大学 青野教授、早田教授）
10/10	国内調査（関西大学 西山教授、秦助教授）
10/10	文科省委託調査事業第 19 回事務局会議
10/17	文科省委託調査事業第 20 回事務局会議
10/24	文科省委託調査事業第 21 回事務局会議
11/14	文科省委託調査事業第 22 回事務局会議
11/16	アンケート調査(大学全体調査)中間集計結果封入及び発送（「学部」のみ回答の学部へ）
12/12	文科省委託調査事業第 23 回事務局会議
12/21	文科省委託調査事業平成 18 年度第 1 回検討会議
平成 19 年 1/3	海外調査（アメリカ 早田教授、堀井助教授 1/3～1/7）
1/9	文科省委託調査事業第 24 回事務局会議

平成 19 年 1/23	文科省委託調査事業第 25 回事務局会議
1/28	海外調査（中国 羽田教授，渡辺助教授 1/28～1/31）
2/6	海外調査（イギリス 秦助教授 2/6～2/13）
2/6	文科省委託調査事業第 26 回事務局会議
2/16	文科省委託調査事業平成 18 年度第 2 回検討会議
2/20	文科省委託調査事業第 27 回事務局会議
2/26	海外調査（オーストラリア 早田教授，堀井助教授 2/26～3/2）
3/6	文科省委託調査事業第 28 回事務局会議
3/13	文科省委託調査事業第 29 回事務局会議

文部科学省〈先導的大学改革推進委託〉

「今後の『大学像』の在り方に関する調査研究：教員の所属組織」に関するアンケート調査
アンケート調査発送・入力・集計作業班メンバー一覧

	氏 名	所 属
代表	轟 亮 助教授	文学部人間学科
作業メンバー	川端 真一	文学部人間学科
	村居 大	〃
〃	吉田 優美恵	〃
〃	池谷 知佳	〃
〃	稲田 茉依子	〃
〃	河江 一輝	〃
〃	田中 由香	〃
〃	川端 優香里	〃
〃	藤原 加代	〃
〃	吉岡 洋介	〃
〃	針生 未央	〃
〃	根津 太一	〃
〃	伊川 雅子	〃
〃	平嶋 美香	〃
〃	久世 悠子	〃
〃	藤川 宜子	〃
〃	浅井 裕亮	〃
〃	久保 朝美	〃
〃	斉藤 有沙	〃
〃	坂井 千里	〃
〃	本間 奈那枝	〃
〃	山根 正義	〃

学部分類別回答状況一覧表

分 類		全体	国立	公立	私立医系	私立不一致
医・歯・獣医	送付数	90	51	6	33	0
	回答数	62	38	3	21	0
	回答率(%)	68.9	61.3	4.8	33.9	
薬・保健・看護	送付数	104	15	24	56	9
	回答数	52	10	13	26	3
	回答率(%)	50.0	19.2	25.0	50.0	5.8
法・経・商	送付数	276	43	11	42	180
	回答数	126	28	7	19	72
	回答率(%)	45.7	22.2	5.6	15.1	57.1
社会・情報(文系)	送付数	86	5	10	13	58
	回答数	29	4	4	4	17
	回答率(%)	33.7	13.8	13.8	13.8	58.6
芸術・体育	送付数	35	5	9	7	14
	回答数	17	2	6	2	7
	回答率(%)	48.6	11.8	35.3	11.8	41.2
人間・生活科学	送付数	77	2	12	16	47
	回答数	31	1	4	6	20
	回答率(%)	40.3	3.2	12.9	19.4	64.5
人文・教育(教育学)・国際	送付数	216	37	17	24	138
	回答数	100	24	11	5	60
	回答率(%)	46.3	24.0	11.0	5.0	60.0
教育(教員養成)	送付数	45	37	0	0	8
	回答数	39	34	0	0	5
	回答率(%)	86.7	87.2			12.8
理・工・農・水・情報(理系)	送付数	258	131	22	42	63
	回答数	159	99	14	17	29
	回答率(%)	61.6	62.3	8.8	10.7	18.2
総合	送付数	28	11	5	5	7
	回答数	9	8	0	0	1
	回答率(%)	32.1	88.9			11.1
その他	送付数	7	5	0	0	2
	回答数	3	3	0	0	0
	回答率(%)	42.9	100.0			
合 計	送付数	1222	342	116	238	526
	回答数	627	251	62	100	214
	回答率(%)	51.3	40.0	9.9	15.9	34.1

分類別データ分析担当者

分 類	アンケート 送付数	アンケート 回答数	分析担当	
				分析結果の原案作成者
医・歯・獣医	90	62	山本 博	西山 宣昭
薬・保健・看護	104	52	高田 重男	西山 宣昭
法・経・商	276	126		早田 幸政
社会・情報(文系)	86	29		西山 宣昭
芸術・体育	35	17		入澤 充
人間・生活科学	77	31		渡辺 達雄
人文・教育(教育学)・国際	216	100	柴田 正良	堀井 祐介
教育(教員養成)	45	39		渡辺 達雄
理・工・農・水・情報(理系)	258	159	山崎 光悦	西山 宣昭
総合	28	9		入澤 充
その他	7	3		入澤 充

資料18-6-①

問1(1) このような制度改革に向けた動きをご存じでしたか。

	全体	国立	公立	私立医系	私立非医系
回答数	226	70	45	42	69
1. 「教員の職」に関する制度改革、「講座/学科目」制に関する規定が削除される方向で審議が進められていること、のいずれも知っていた	76.5	88.6	71.1	73.8	69.6
2. 「教員の職」に関する制度改革のことは、知っていた	22.6	11.4	28.9	23.8	29.0
3. 「講座/学科目」制に関する規定が削除される方向で審議が進められているということは、知っていた	0.9	0.0	0.0	2.4	1.4
4. 全く知らなかった	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問1(2) 【問1(1)で1～3と回答された大学にお尋ねします】貴大学は、このような制度改革に関する情報をどのようにして入手されたのですか。

あてはまるのをすべてお選びください。

(複数回答可)

	全体	国立	公立	私立医系	私立非医系
回答数	225	70	45	42	68
1. 新聞報道(一般紙, 専門紙)を通じて	44.4	44.3	40.0	42.9	48.5
2. 高等教育等を専門に扱う雑誌を通じて	45.3	44.3	40.0	47.6	48.5
3. 文部科学省のホームページを通じて	53.8	57.1	57.8	42.9	54.4
4. 中央教育審議会の答申等を通じて	88.0	98.6	80.0	85.7	83.8
5. 学内会議等で	18.2	21.4	11.1	16.7	20.6
6. 同僚の教職員を通じて	7.6	8.6	8.9	2.4	8.8
7. 講演会等で	9.8	8.6	6.7	7.1	14.7
8. その他の方法を通じて	11.1	2.9	20.0	16.7	10.3

問1(3) 【問1(1)で、1または2と回答された大学にお尋ねします】貴大学は、教員の職に関し、「助教」を新設した制度改革の趣旨を受け助手制度との関連の中で、この新職を本来、どのように運用すべきであると考えられていますか。

	全体	国立	公立	私立医系	私立非医系
回答数	222	69	45	40	68
1. 助手は、本来、「助教授」、「教授」に通じるキャリアであることから、原則これを「助教」に位置づける	11.3	14.5	8.9	20.0	4.4
2. 助手の中から、自ら教育研究を行うことを主たる職務とする者を「助教」に位置づける	25.7	40.6	17.8	22.5	17.6
3. 「助教」は、教授、准教授といったテニユア(終身雇用権)を得るまでのテニユア・トラックに載っている身分であることが、前提とされている以上、助手の中でも、教育研究能力に秀でている者に「助教」としての位置付けを与えるのが適当である	14.9	17.4	20.0	12.5	10.3
4. 助手は、教育研究の補助者としての色彩が濃いので、直ちにこれを「助教」に移行させると考えるべきでなく、「助教」の採用、「助教」への昇格にかかる基準・手続は、別の視点から行われるべきである。	23.0	2.9	22.2	27.5	41.2
5. その他	25.2	24.6	31.1	17.5	26.5

問1(4) 【問1(1)で、1または2と回答された大学にお尋ねします】それでは、実際に、貴大学は、こうした制度改革に対応させて、助手をどう位置づけていくことを計画されていますか。

	全体	国立	公立	私立医系	私立非医系
回答数	203	66	38	38	61
1. 助教に移行させる	9.4	13.6	13.2	7.9	3.3
2. 助教と助手を分けて移行させる	31.0	42.4	26.3	28.9	23.0
3. そのまま「助手」の身分に留めておく	2.5	0.0	0.0	0.0	8.2
4. 現時点では、未定	44.3	30.3	50.0	50.0	52.5
5. その他	12.8	13.6	10.5	13.2	13.1

大学全体調査

問1(5) 【問1(1)で、1または2と回答された大学のうち、専任講師の職を置かれている大学にお尋ねします】教員の職にかかる上記のような制度改革で「准教授」、「助教」の制度が設けられたことと相俟って、学内の「専任講師」を今後、どう処遇することを検討されていますか。ご自由にご記述下さい。

自由記述のため、今回は省略

問2 【すべての大学にお尋ねします】貴大学では、講座/学科目制を採用されていますか。

	全体	国立	公立	私立医系	私立非医系
回答数	226	70	45	42	69
1. 採用している	61.5	91.4	60.0	83.3	18.8
2. 採用していない	38.5	8.6	40.0	16.7	81.2

問3 【以下の問3～問8は、問2で1と回答された大学にお尋ねします。それ以外の大学は、問9にお進みください】貴大学では、これまでの講座/学科目制につき、その存廃を含め、どのような対応を採られるご予定ですか。

	全体	国立	公立	私立医系	私立非医系
回答数	137	63	27	35	12
1. 講座/学科目制を全面的に廃止する	2.2	4.8	0.0	0.0	0.0
2. 講座/学科目制を部分的に廃止する	8.8	9.5	7.4	11.4	0.0
3. 講座制を廃止し、学科目制に移行させる	2.2	0.0	7.4	0.0	8.3
4. 講座/学科目制を、そのまま存続させる	19.7	7.9	18.5	42.9	16.7
5. 未定	56.2	61.9	59.3	37.1	75.0
6. その他	10.9	15.9	7.4	8.6	0.0

問4 講座/学科目制は、どのような点に問題があるとお考えですか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）

	全体	国立	公立	私立医系	私立非医系
回答数	131	60	27	33	11
1. 教員の採用、昇格等、人事手続の進め方が閉鎖的・硬直的になっている	62.6	66.7	63.0	60.6	45.5
2. 講座/学科目に所属する教員の担当授業科目に偏りがみられ、必要な授業科目が提供しにくくなる とともに、体系的で一貫したカリキュラムが編成しづらくなっている	32.8	26.7	40.7	33.3	45.5
3. 社会の要請する人材需要に対応したカリキュラムが編成しづらくなっている	35.1	45.0	33.3	24.2	18.2
4. 教育、研究の両面において、学際領域、学融合領域への柔軟な対応が難しくなっている	55.7	66.7	37.0	48.5	63.6
5. 講座/学科目制の中で、「助手」の教育研究にかかる職務上の位置づけが明確でなく、若手研究者 としての自立的な研究が難しくなっている	23.7	23.3	25.9	27.3	9.1
6. 財政運営上、講座/学科目に基礎づけられた教員組織を維持していくのが困難である	26.7	36.7	14.8	21.2	18.2
7. その他	9.9	8.3	11.1	12.1	9.1